

「公共建築の日」2024 フォトコンテスト

受賞作品集

——人が集^{つど}う建物——

「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会
一般社団法人公共建築協会 北海道地区事務局

<https://www.pbaweb.jp/association/branch/hokkaido/photocon/>

「公共建築の日」2024 フォトコンテスト 審査結果報告

本年のフォトコンテストは、2024（令和6）年7月1日に応募要項を発表し、応募部門を「デジタルカメラ部門」、
「携帯・スマホ部門」の2部門で、2023（令和5）年10月以降に撮影した作品を対象に、「人が集う建物」をテーマ
として2024（令和6）年7月1日から同年9月30日まで応募を受け付けました。

その結果、2部門とも昨年の応募総数を上回る応募になり、特に「携帯・スマホ部門」は1.6倍に増えました。多
数の応募を頂いたことにお礼申し上げます。

「デジタルカメラ部門」 67点（2023〔令和5〕年：61点）

「携帯・スマホ部門」 70点（2023〔令和5〕年：44点）

2024（令和6）年10月21日に開催された審査委員会において、厳正なる審査の結果、次の作品が選考されました。
来年のフォトコンテストに引き続き多数の応募を賜ることを実行委員会一同祈念しております。

「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会
（事務局：一般社団法人公共建築協会北海道地区事務局）

● 受賞作品一覧

【デジタルカメラ部門】			
賞	作品タイトル	対象公共施設	受賞者
グランプリ	満開のチューリップ	風車展望台 (かみゆうべつチューリップ公園)	鈴木 徹(上湧別町)
準グランプリ	札幌ピリカコタン秋の訪問	チセ(札幌ピリカコタン)	山内 佳子(札幌市)
準グランプリ	避暑地のピラミッド遺跡	ガラスのピラミッド(モエレ沼公園)	佐竹 輝昭(札幌市)
佳作	レトロな小樽駅	小樽駅	Hank Chung(台湾)
佳作	地域の基幹	ゆうばり文化スポーツセンター	原 聡彦(札幌市)
佳作	時代を映す水面	小樽運河倉庫群	長谷 薫(愛知県)
佳作	スカイアトリウム	新千歳空港	南部 孝(札幌市)
【携帯・スマホ部門】			
賞	作品タイトル	対象公共施設	受賞者
特選	旅人を迎える夕景の札幌駅	札幌駅	谷口 美江(札幌市)
入選	冬の集い	氷海展望塔オホーツクタワー	金 昭賢(東京都)
入選	おうちに、かえろう	函館駅	須賀 聡子(函館市)
入選	秋祭りの日のちえりあ	札幌市生涯学習センター ちえりあ	藤原 睦(札幌市)
奨励賞	苦難を乗り越え半世紀、 そして、その先へ	いけだワイン城	田中 秀樹(札幌市)
奨励賞	休憩中	豊平館(中島公園)	佐々木 郁太郎(札幌市)
奨励賞	レンガ色に染る	北海道大学農学部	只石 秀樹(札幌市)
奨励賞	静寂なひととき	大和ハウスプレミストドーム	大場 悠晴(札幌市)

●「公共建築の日」2024 フォトコンテスト審査委員会

(敬称略)

委員長	佐藤 雅英	(公社)日本写真家協会会員 NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワーク顧問
委員	滝本 悦郎	国土交通省北海道開発局営繕部長
	平井 亮	国土交通省北海道開発局営繕部営繕計画課長
	鈴木 伸広	北海道建設部建築局建築整備課長
	中田 丈晴	札幌市都市局建築部建築保全課長

● 審査風景



「公共建築の日」2024 フォトコンテスト総評

審査委員長 ● 佐藤 雅英



「公共建築の日」フォトコンテストは、2003（平成15）年に第1回を開催して以来、「建築と人間のかかわり」を主題に各年で関連するテーマを設定し、実施してきた。建築は人に利用され、愛されることによりその価値が高まっていくとの認識にたっているものである。一昨年までは新型コロナの感染拡大の影響もあり、「建築と自然」を主題としてきたが、昨年度から本来の募集テーマに戻し公共建築を題材に風景や、そこに集う人たちの様子などの魅力ある写真を期待し、募集テーマを「人が集う建物」とした。

本年度は、両部門ともに応募数が増加し、「スマホ・携帯部門」においては昨年度の1.6倍の応募があり、作品の撮影場所も全道各地に広がっていて、外出自粛の影響が払拭されたような印象を受けた。応募者を含め多くの方々が、生き生きと活動を始めたことの証であり、そのことがあらわれている作品が多かった。

今回の審査を終えてみると撮影場所の広がりもあり、新たな発見といえるような、充実した良い作品が多かったと思う。応募いただいた皆様に心より感謝申し上げたい。

今回の応募作品のどれもが力作で、それぞれの表現に特徴があり、優劣つけがたい作品ばかりであった。審査委員会の各委員も真摯に審査し、選考作業を行った。その結果、今回の受賞作品は、その中にあっても人の営みと建築との関りが感じられる作品、建築物を際立たせる画面構成の巧みさや「光」の濃淡、「公共建築」への視点にぶれがないものなどが選考されることになった。詳細については講評をお読みいただきたい。

人々が街に戻り、賑わいを取り戻し、生き生きとした活動が再開されている。来年の「公共建築の日」2025 フォトコンテストでは、多くの人が集う作品と更に北海道内各地の素材を生かした応募が寄せられることを期待している。

最後に、安心して暮らせる日常とともに建築や街中に人々の明るい笑い声がこだまする日が続くことを切に念じて総評を書き終えることにしたい。

来年が皆さんにとってより良い1年であることを祈念します。

Profile

1946年稚内市生まれ、札幌在住。（公社）日本写真家協会会員、NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワーク顧問。国内外の芸術家、文化人、匠の肖像、都市の歴史、建築、文化などを撮り続け、東京コダックフォトサロン、韓国、日本大使館広報文化院、中国魯迅美術館などで数多くの写真展を開催。特に2001年同時多発テロ前後を捉えた『NEW YORK NEW YORK Peace and Love』は話題となる。2000年、現代日本の写真（ARTBOX international）日本を代表する写真家110名に選ばれる。2014年、パリ日本年日本選抜作家展（フランス・パリ「モナリザギャラリー」）、2015年、「目で楽しむ音楽展」（札幌芸術の森美術館）、2016年、500m美術館 Vol.18「記憶と記録の札幌」（地下歩道空間）。

デジタルカメラ
部門
グランプリ

満開のチューリップ

鈴木 徹（上湧別町）

風車展望台（かみゆうべつチューリップ公園）



建物に主体があり人との関わりがよくわかり、建物が愛されている感じが一目瞭然でわかる写真である。建物に寄って写したことによる花と建物と空の水平のバランスが良い。人物もはっきりとわかるどころも良く、「人が集う建物」という募集テーマがそのまま表現された素晴らしい作品である。

携帯・スマホ
部門
特選

旅人を迎える夕景の札幌駅

谷口 美江（札幌市）

札幌駅



ちょっとローアングル構えた構図で、本郷新さんの彫刻「牧歌」と世界的デザイナーの五十嵐威暢さんがデザインした札幌駅のシンボル「星の大時計」のバランスが非常に良い。撮影した時間帯の柔らかい西日も作品を良いものになっている。画面右の JR タワーの上部が切れずにもう少し写っていると更に良かったと思う。

デジタルカメラ
部門

準グランプリ

札幌ピリカコタン秋の訪問

山内 佳子（札幌市）

チセ（札幌ピリカコタン）



全体的に晩秋の色でよくまとまっているところが良い。ローアングルで捉え、非常に建物もよく見え、下の落ち葉とのバランスも良い作品である。全体が柔らかい秋の光をうまく捉えており、人物の配置も非常に良い。

デジタルカメラ
部門

準グランプリ

避暑地のピラミッド遺跡

佐竹 輝昭（札幌市）

ガラスのピラミッド（モエレ沼公園）



手前の松の木のボリュームが少し多すぎる感じがするが、非常に良い写真である。もっと建物を主体としてとらえたほうが更に良かった。人の賑わいも十分感じられ人物とのバランスがとても良い作品である。

デジタルカメラ
部門

レトロな小樽駅

佳作

Hank Chung (台湾)

小樽駅

非常にレトロな雰囲気が伝わってくる良い作品である。影の部分もつぶれずに構造体として使われているレールなどのディテールが分かるよう意識して撮っている。対称性が強く感じられ、上屋の影も意識して写されていて構図的にも素晴らしく面白い作品である。



デジタルカメラ
部門

地域の基幹

原 聡彦 (札幌市)

佳作

ゆうばり文化スポーツセンター



人との関わりがよく表現されている。建物が利用されていて学生がこの建物に入ろうとしている情景が非常に良い。元気に利用している感じが伝わってくる。まさしく地域の基幹となる施設であることを伝えたい作者の意図が強く表された作品である。

デジタルカメラ
部門
佳作

時代を映す水面

長谷 薫（愛知県）

小樽運河倉庫群



オーソドックスな写真であるが、時代も伝統も感じさせ、静寂さが伝わる良い写真である。建物がライトアップされ、水面に映しこまれた光の感じが良い。水面の黒い部分が不思議な印象となっている綺麗な作品である。

デジタルカメラ
部門
佳作

スカイアトリウム

南部 孝（札幌市）

新千歳空港



ターミナルの賑わいが伝わってくる写真。シャッター速度で人の動きをぼかし面白い効果としている。白を基調にしたスカイアトリウムに自然光が差し込み、光が燦々と輝く開放的な印象と、大空間を構成しているトラスの連なりがアトリウムの広がりさをさらに大きく感じさせる効果を狙ったと思われる作品である。

携帯・スマホ
部門

入選

冬の集い

金 昭賢（東京都）

氷海展望塔オホーツクタワー



曇天と流氷が写真の素材として素晴らしく、厳しい冬の流氷と建物のバランスが非常に良い。タイトルの「冬の集い」が、厳冬期に訪れる流氷の集いとともに、厳しいオホーツクの冬の建物に人が集っている印象を与えている。現地でなければ知りえない魅力を情報発信できる作品である。

携帯・スマホ
部門

入選

うちに、かえろう

須賀 聡子（函館市）

函館駅



工業デザイナー^{はやししょうへい}林 昌 平さんの駅前モニュメント「OYAKO」と建物、人物の配置、全体のバランスが非常に良い。修学旅行から帰ってきた子供たちを迎えに来たと思われる保護者たちが見守り、温かみを感じる写真である。写真とタイトルから何かを想像してほしいという撮った人の思いが伝わってくる作品である。

携帯・スマホ
部門

入選

秋祭りの日のちえりあ

藤原 睦（札幌市）

札幌市生涯学習センター ちえりあ



この建築の特徴であるカーブのラインの感じをうまく捉えており、建物と木と人物の配置のバランスが良い。木と建物が微妙に重なっておらず、ギリギリのところで建物の外壁のカーブ部分をうまく表現している。過去の同じ建物を題材とした作品と比較しても、建物の特徴をうまく表現できている良い作品である。

携帯・スマホ
部門

奨励賞

苦難を乗り越え半世紀、そして、その先へ 田中 秀樹（札幌市）

いけだワイン城



タイトルと写真がマッチしている作品である。樽が落ちないようにバランス的にもこの坂を上手く利用して写真的にも良い作品である。構図的には下の緑の部分のボリュームがもう少しあった方が良かったと思う。

携帯・スマホ
部門

奨励賞

休憩中

佐々木 郁太郎（札幌市）

豊平館（中島公園）



みていてホッとさせる写真である。鴨がいることによって、バランスが良くとれている。偶然とはいえ鴨の間隔が非常に良くなるようにアングルが考えられていて、撮影のタイミングも良く、鴨が写っていることにより建物が引き立つ良い作品である。

携帯・スマホ
部門

奨励賞

レンガ色に染る^{そま}

只石 秀樹（札幌市）

北海道大学農学部



不思議な印象の写真である。モノクロの世界に除雪機の赤の部分がかすかに残っている非常に不思議な写真。朝のある時点であることは、作業している除雪機がその時間を表している。カラーと白黒を混在させることで、非常に効果的に表現されている作品である。

携帯・スマホ
部門

静寂なひととき

大場 悠晴（札幌市）

奨励賞

大和ハウスプレミストドーム

建物の特徴をしっかり捉えており、狙い処がはっきり表現されている作品。縦位置を広角で少し煽って撮影している。この作品は、普段、目がいきづらいところを撮影対象としていて、建築に対しての理解度を感じさせる作品である。



「公共建築の日」……公共建築が国民生活に一層密着したより良いものとなることを目指し、建築の基本的な構造を象徴する4本の「柱」のイメージや国会議事堂の完成（昭和11年11月）などから、11月11日を「公共建築の日」、そして11月を「公共建築月間」とし、さまざまなイベントを実施しています。「公共建築の日」や「公共建築月間」についてはウェブサイト（https://www.pbaweb.jp/pb_date/events/）をご覧ください。

「公共建築の日」2024 フォトコンテスト

受賞作品集

<https://www.pbaweb.jp/association/branch/hokkaido/photocon/>



本作品集に掲載された写真、文章等を、
一般社団法人公共建築協会ならびに著作権者の承諾なしに
無断で複写またはスキャニング、データベースへの入力、
インターネットでの掲載等することを禁じます。

© 2024 一般社団法人公共建築協会